



Contents

01	世話人会報告	05~06	会員インタビュー
02	ボランティア活動 & 学友会からのお知らせ	07	新年会
03~04	連載 旅を刻む	08~19	同好会活動報告
		19	編集後記





世話人会報告

1. さんさん会の運営に関すること

来期の事業計画について：

第75回 11/13 で令和7年度の事業計画は令和6年度と同等の活動を計画する方針が決定されました。

会計・予算：

第77回 1/8 で今期決算と来期予算案が了承され、来期予算は大幅な支出超過となるものの、次期繰越金に余裕があるためさんさん会会費は2,000円を継続することとしました。

世話人選任：

第75回～第78回 2/12 で来期の世話人選任については、永井さん(企画)と山口さん(学友会担当)が退任し、倉原さん(企画)、稲垣さん(総務)、榎本さん(監査)が新任と決定しました。また、副代表・広報担当リーダーに安来院さん、広報サブリーダーに松山さん、学友会担当は北風さんに決定しました。

会員継続・入会案内：

第77回でさんさん会と学友会の会員継続・入会案内をブロック別配布責任者より配布しました。入会はゆうちょ銀行への入金で確認できるため、「入会申込書」の提出は適宜の方法で可能とし、次年度からは退会者への案内は行わないこととしました。第79回 3/12 で、さんさん会は55名(前年度より2名減)、学友会は24名(前年度と同人数)でした。

総会：

第76回 12/11～第79回で総会を4月7日にリード芦屋の会議室C&Dで、飲食は行わず、終了後に映画会を計画することとしました。総会次第は令和6年度の事業報告、収支決算報告、会計監査報告、令和7年度の事業計画(案)、収支予算(案)、世話人の選任(案)としました。

団体傷害保険：

第77回で加入同好会は来期予想参加人員を2月末までに総務Gに報告し、各同好会の加入の可否を確認することとしました。第80回 5/14 で費用処理が保険会社と行われ、保険契約の年度末(4月)に各同好会の行事参加者数を「行事参加者集計表」により確認することとしました。

プロジェクターについて：

第76回、第79回で追加部品、交換部品の購入で10,377円の増加となりましたが、関係同好会からの使用料で2月末に完済見込みとなり、以降のさんさん会関連の使用は無料、33期以外への貸し出しは行わないこととしました。また、メンテナンス費用は発生の都度さんさん会予備費から充当、管理責任者は広報Gが担当することとしました。

2. イベント、広報等に関すること

10/27 第11回イベント

「クラシックコンサート」：

第75回で32期44名、33期43名が参加し、大変好評だったと報告がありました。収支は3,860円の黒字となり、32・33期で按分して会計に繰り入れました。なお219室の確保が見通せないため、再度の開催は困難としました。

新年会：

第75回～第78回で令和7年1月16日(木)に櫻正宗記念館「櫻宴」(魚崎)で開催、併せて菊正宗酒蔵記念館を見学、参加者は36名、楽しい新年会となりました。会費は当初4,000円で計画しましたが、5,000円に変更しました。収支差額△8,640円は会計事業費より充当することとしました。

映画会：

第75回、第76回、第78回、第81回 6/11 で第2回映画会は11月28日に「銀河鉄道の父」を上映することとし、参加者22名で大変好評でした。次回は総会で「大河への道」伊能忠敬物語に決定しました。第3回映画会は7月4日(金)に「モリコーネ 映画が恋した音楽家」を上映することとしました。

講演会：

第80回 5/14 で講演会は10月29日(水)に延期され、北風文子さんを講師に「英文学について(仮題)」を開催することとしました。

同好会：

第80回で「城巡りの会」は「ハコモノ巡りの会」に改め、新たな活動を行うこととなりました。

さんさん会だより：

第76回、第78回、第81回でVol.15は20ページ、80部で印刷費は約1万円と低く抑えられたとの報告があり、Vol.16は7月世話人会時に配布予定としました。



ボランティア活動

1. 市立芦屋病院ガーデンクラブ

私たちにとっては、うっとうしい梅雨を迎えましたが、植物にとっては恵みの雨。花壇の草むしりに忙しい時期を迎えています。

市民病院を訪れる患者さん、病院スタッフの人達に少しでも心の安らぎを感じて欲しいとの想いで、日々庭園の整備に努めています。今年行なった作業を2件紹介します。

(1) 北花壇のデザイン変更

来院された方は既に気が付かれたかも知れませんが、3月末に市民病院の北玄関前の花壇のデザインを変更しました。花壇の両サイドにカラー小石を敷き詰め、中央部に植栽をまとめることで、コンパクトですっきりした花壇に変身しました。



この花壇は自動散水設備がないため、どうしても夏場は水不足になり、枯れる花苗が出ていましたが、今回の変更で水やりがしやすくなりました。夏でも爽やかな花壇が維持されることも期待しています。

(2) 山麓公園のノジギクコーナーの整備

今まで整備されていなかった山麓公園の一部でノジギクの育成を進めています。兵庫県の県花であるノジギクを育てるため、県の「のじぎくの里作り事業」に参加し、苗の配布を受けて育てているものです。



実は昨年も植え付けましたが、夏の高温と水不足、雑草に負けて失敗！ 今年は再挑戦です。10月には、ノジギクの可憐な花の群生が見られるでしょうか？ 皆さん期待してくださいね！

現在、さんさん会から4名（稲垣、榎本、梅野、



松山) が参加しています。毎月第1水曜、第3水曜の9時30分から2時間の作業です。お試

しても、パートタイムでも大歓迎！参加される場合は、お気軽にご連絡ください。待ってまーす。

2. 特別養護老人ホーム喜楽苑ボランティア

学友会の活動に参加しています。喜楽苑の北側、歩道に接した三角形の花壇の一部が33期の持ち場です。

3月15日は兵東さん、榎本さん、山川さん、松山さんの4名が参加して花苗を植替えました。学友会全体では35名でした。



6月は雨のため一日延びて15日日曜、天王寺谷さん、松山さんの2名が参加しました。



学友会からのお知らせ

今年度の学友会の会員は557人、33期の会員は25人です。前回報告以降の行事は以下のとおり。

(1) 11/2~7「美術展」の出展数は77点、33期から前田さん、北風さん、久我さんが出展しました。来場者は延べ476人でした。

(2) 12/9 講演会「2025年日本国際博覧会の魅力」の参加者は128名、33期は7名でした。

(3) 1/15「新年を祝う会・和太鼓演奏」の参加者は178名で、迫力ある演奏が感動的でした。

(4) 2/20「女性親睦麻雀大会」に稲垣さん、山崎さんが参加し、稲垣さんがBB賞を獲得しました。

(5) 3/10 映画「オペラ座の怪人」の参加者は193名、33期は10名でした。

(6) 4/14 学友会総会後の「新入会員歓迎会」は高島峻輔市長に「JR芦屋駅南再開発の進捗状況と芦屋の未来」をテーマに語って頂きました。参加者は154名でした。

(7) 5/12に元統合幕僚長・河野克俊氏による「国際情勢講演会」の参加者は196名でした。

(8) 6/9 映画会「グロッパ」の参加者は132名、33期は6名でした。

このほか

・3/15、6/15 社会貢献活動として喜楽苑で花の植替えを実施。33期も上記の通り参加しました。

・7/15~9/15 隧道展示 33期が出展予定です。



連載 旅を刻む 第3回 英国編

前田 穰



2014年英国クリスマスマーケット

2014年のクリスマスマーケットツアーを探していたところ、旅行社の案内に珍しく英国のツアーがあったので、飛びつきました。

旅行代金は、6日間でなんと一人10万円(燃油サーチャージ別)今では考えられない料金です。

一般にクリスマスマーケットはドイツが広く知れ渡り有名で、英国はあまり聞いたことがなく、興味津々に申し込みました。

訪れた街は、マンチェスター、チェスター、バーミンガム、ロンドン。

ロンドンでは Hyde Park で開かれる季節限定の遊園地付き大規模クリスマスマーケットを満喫しました。

チェスターは、中世の街並みを色濃く残す街で、旧市街の城壁から新市街を見た景色が気に入り、水彩画に描いてみました。



チェスター旧市街の城壁から新市街を望む (水彩画・8号)



チェスター旧市街を望む チェスター旧市街の城壁



マンチェスターの X'mas マーケット



バーミンガムのクリスマスマーケット

ロンドンでは、今回ツアーの目玉であるテムズ川河畔、直径 135 メートルの大観覧車「ロンドンアイ」に乗り、ロンドンの夜景を上から望みました。



次の日、「ロンドンアイ」の前に建つ「マリオットホテル」でアフタヌーンティーを体験した時、うっかりホテルの部屋に財布を忘れたのに気づき、ツアーに同行していた方に建て替えてもらった、というハプニングもありました。



ロンドン・タワーブリッジを望む (水彩画・8号)



オランダ・ベルギー編



2009年 オランダ・ベルギー アート巡り

今回の旅は、海外の有名なアート作品を観るには、海外に行って本物を観るのが一番ということで、オランダとベルギー2か国のアート作品を巡るツアーに参加しました。

KLM オランダ航空直行便でアムステルダムへ。
着後、キンデルダイクへ。
世界遺産の風車群を見に行く。
圧倒的な風車の存在感に感動し、絵に描くことを決めた。

その後ベルギー・アントワープへ。
ノートルダム大聖堂で、ルーベンスの作品「聖母被昇天」「十字架昇架」「十字架降下」「キリストの復活」等を観る。

ゲントでは「聖バーフ大聖堂」で、ファン・アイク兄弟作「神秘の子羊の礼拝」を観る。

ブルージュでは、中世の佇まいを残す運河沿いの建物群が印象に残り、水彩画に仕上げました。



ベルギー・ブルージュ歴史地区 (水彩画・20号)

オランダに戻り、オッテルローにあるゴッホの作品を多数観賞できる「クレラー・ミュラー美術館」へ。
「アルルの跳ね橋」「夜のカフェテラス」「自画像」等、観客も少ない中でゴッホ作品を存分にゆっくりと鑑賞出来ました。

その後アムステルダムへ。
「ゴッホ美術館」にて「ひまわり」「じゃがいもを食べる人々」「寝室」等を鑑賞。写真撮影は叶いませんでしたが、ロビーで記念撮影。



クレラー・ミュラー ゴッホ美術館

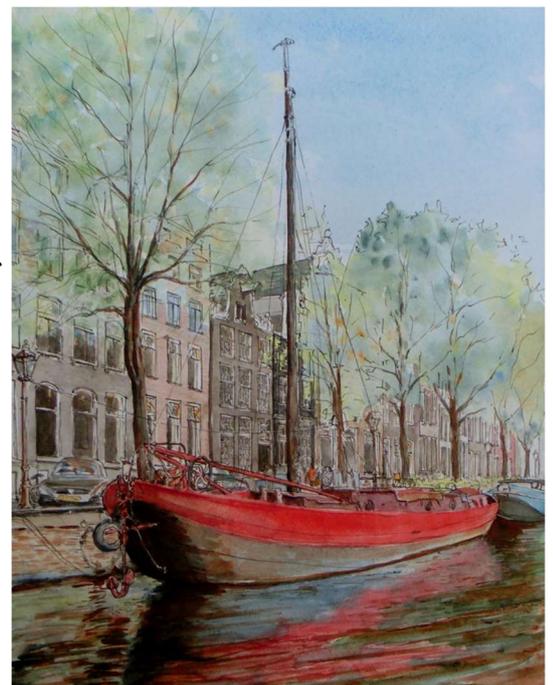
美術観賞の後は、世界遺産に登録された運河地区を船で巡り、その中で印象に残った風景を水彩画にしました。

ハーグの「マウリッツハイス美術館」では、フェルメール作「真珠の首飾りの少女」等。

「アムステルダム国立美術館」では、フェルメール作「牛乳を注ぐ女」、レンブラント作「夜警」等を鑑賞しました。
美術館巡り7日間の旅は終わりました。



オランダ・キンデルダイク (水彩画・6号)



オランダ・アムステルダム (水彩画・6号)



会員インタビュー そこを知りたい



自慢の作品がコラボする夫婦作品展について 前田 穰さん

今年の3月、なんとリーガロイヤルホテル大阪で展示会を開催された。ご夫婦それぞれ自慢の作品が響きあうコラボに、調和のとれた展示方法など。格調高い場所に似合い、とても上品かつ凛として、心が躍る、素敵な展示会を見せてもらいました。芦屋のそれも我がさんさん会のメンバーがこんな晴れがましいところで成功されているのを拝見し、私も何か誇らしい気持ちになりました。前田さんに、展示会について聞いてみました。



Q:そもそも、珍しいご夫婦二人での作品展を始められた、きっかけは？

A:「水彩画とフラワーアート、夫婦の作品展」を始めたのが2018年5月、あしや喜楽苑のギャラリーでした。そこで働いておられる方が私の知人だったことから、作品展のお誘いを受けたのです。水彩画を始めて6年間で作品の数も結構増えてきたので、発表するには良い頃合いだと思い快諾しました。私の妻はフラワーアートを長年教えているので、水彩画とフラワーアートの作品を一緒に展示するのも面白いと考え、夫婦の作品展の始まりとなりました。

Q:それが一流ホテルであるリーガロイヤル大阪での展示につながっていくのですか？

A:喜楽苑ギャラリーでの夫婦作品展開催後直ぐにリーガロイヤルギャラリーから開催のお誘いを受けました。夫婦での水彩画とフラワーアートのコラボという形が気に入られたのだと思います。

Q:でも、一回目のリーガロイヤルの展示会は、コロナの影響を受けたのですか？

A:2020年3月、リーガロイヤルギャラリーでの作品展開催時が丁度コロナ禍の始まりで、皆さん戦々恐々としていた時期でした。開催を中止する選択肢もありましたが、準備も完了していたので決行。出来る限りの案内状を出したのですが、やはり客足は悪く、観に来て頂く方は限られました。

Q:その後も喜楽苑での展示は続いたのですか？

A:喜楽苑での作品展は2回開催しました。

そして昨年末、5年ぶりにリーガロイヤルギャラリーから再度の作品展開催のお誘いを受けました。準備期間は少なかったですが、5年前のリベンジということで、前回の作品も何点かは使いながら、新規の作品も充実させて計画しました。

Q:2度目とは、すごいことですね。期待度も高いというか。海外のお客さんも多い大阪の一流ホテルでの開催をリクエストされたのですか？

A:今回の会場は前回とは違い、新設された明るく観やすい会場となっていました。

Q:そうですね。格調高い一流料亭のお店が並ぶ地下のど真ん中のエリアが割り当てられたのですか？

展示に、ご苦労された点は。

A:作品の運搬には自家用車では無理なので、赤帽車にお願いしました。水彩画の額入り箱が大小40枚とフラワーアートの入った段ボール箱が大小合わせて十数個、朝から運び込んで夕方までかかって展示飾り付け。絵の展示レイアウト、吊り下げワイヤー取り付け、額吊り・水平調整、スポットライト位置・角度調整と殆ど一人で、脚立の昇り降りでした。

Q:とても手作りとは思えない出来栄でした。狙いは。

A:フラワーアートは、いくつかの水彩画作品を選び、その絵のイメージを連想させるようなアレンジを展示台上に展開しました。彩り華やかな生花（八重咲きのユリ）も花器にアレンジし2ヶ所設置しました。

作品のタイトルカードを壁に取り付け、これで準備全て完了です。



Q:まさに常設会場であるかのように周辺の雰囲気
にぴったり合った展示場になっていました。
そして、そこに込められた思い・意図が伝わる展示
会でした。作品展の評判は上々とか。

A:開場初日早々、お客様が来られ幸先よくスタート。
その後も5年前の前回とは違って順調に来場
者が続き、接客のため昼食をとる時間がとれなくな
るほどでした。

Q:特に気を配られたところは、どこですか。

A:女性の来場者には、
ワインのコルク栓に
穴を開け可愛いア
ートフラワーを挿した、
ミニ花飾りを妻が作
ってプレゼントし、
大変喜ばれました。



Q:感動のあまり、その場で作品を購入したいと申
し出られる方もおられたとか。

A:水彩画作品を購入希望される方もおられ、自分
なりの金額を提示しお譲りすることにしました。
買って頂いたのは皆さん知り合いの方でしたが、
その売り上げにより会場費を何とか工面すること
ができて良かったと思います。

Q:えっそうですか
ということは、前回
は赤字であったとい
うことですね。
でも意義はあったと。
A:この作品展開催の
おかげで、来場者
の中には何十年振り
に会う方も沢山お
られ、懐かしく嬉
しい出会いがあり
ました。



Q:素晴らしい体験
をされましたが、
それはご褒美です
ね。私も感動しま
した。そして今後
の抱負は。

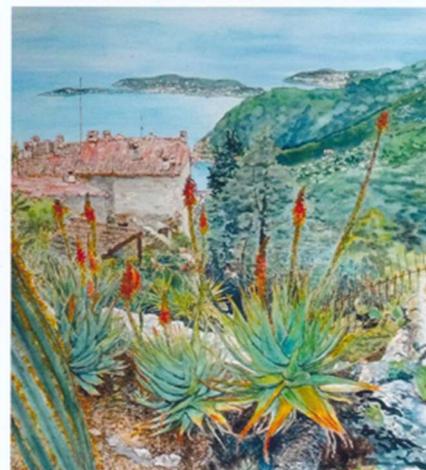
A:今回のような規
模の作品展は、こ
れからは難しい
とは思いますが、
作品は作り続
けて行きますの
で、発表する機
会があれば積極
的にやってゆ
きたいです。



水彩画とフラワーアート・夫婦の作品展 Part 2

前田 稜 (水彩画、13年目の選りすぐり)
前田典子 (フラワーアートを手掛けて42年)

日時: 2025. 3. 11 (火) ~ 3. 16 (日) (10:00 ~ 18:00)
場所: リーガロイヤルホテル 地下1階ギャラリー



RR

リーガロイヤルホテル
〒530-0005
大阪市北区中之島5-3-68
(06) 6448-1121 (代)
<https://www.rhga.co.jp>

サボテンガーデン

前田 稜・画 「モナコ・外来植物園にて」(F10号)



令和7年新年会



令和7年度の新年会は、ちょうど30年前の阪神大震災の前日にあたる1月16日行われました。あの日と同じ底冷えする朝でした。

この寒さにもかかわらず36名もご参加いただき、企画女子4人組にとって大変うれしい年初めの行事となりました。

昨年12月に「日本の伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されたという事で、日本有数の酒どころ地元「灘五郷」の「菊正宗酒造記念館」を見学しました。さらに宴会場を「櫻正宗」としたことで日本の酒造りを再認識する誠に良いタイミングだと思いました。

ガイドさんの丁寧なお話を聞きながらの見学で「酒造り」が良く理解できました。最後の締め括りには試飲の機会もありました。4杯も試飲された方がいました。誰でしょう!?



会場の「櫻正宗 櫻宴」へ移動し、新年会の始まりです。

各テーブルには新春に因んで七福神の中から布袋尊 恵比寿天 福祿寿 弁財天、そして座席クジの箱には「七福神と宝船」で今年の吉兆を願いお祝いムードを盛り上げました!!

兵東代表の始まりの挨拶。今回はビールではなく櫻正宗の日本酒で、名簿1番の安居院さんの音頭で乾杯!

お食事&お喋りタイムになりました。



どのテーブルも、にぎやかな談笑に包まれましたね!!

ワイワイがやがや楽しい2時間の後、締めの挨拶を梅野さんをお願いし一本締めで皆様の吉兆と健康を祈りながら今年の新年会を散会しました。



記：塩路弘子（企画担当）



城巡りの会 ⇒ ハコモノ巡りの会

リーダー：梅野欽二 会員：18名



「城巡りの会」は発足以来8年が経過し、関西地区の主要なお城はほぼ制圧してしまいました。残るは竹田城など山城ばかり、自然と足が遠のいてきました。

そこで4月2日の総会で協議した結果、活動内容を変更して「ハコモノ巡りの会」として再出発することになりました。

今までの活動を右の表にまとめてみました。城巡りは毎回楽しい旅の連続でした。

「ハコモノ巡りの会」の活動方針と今後の予定について：

- ・関西近郊の各種博物館を巡る会とし、年に3回程度の活動を予定しています。
- ・第一回目の活動（予定）

10月28日(火) 竹中大工道具博物館
(神戸市中央区熊内町)

本活動に興味のある方はぜひ入会して下さい。



制圧したお城

	城名	＋(お楽しみアイテム)	参加者
2017年4月	丹波篠山城	櫻のつぼみと箱鮓ランチ	7名
2017年9月	龍野城	素麺定食と醤油蔵探索	10名
2017年11月	二条城	金戒光明寺の紅葉	9名
2017年12月	岡山城	後楽園と倉敷の歴史散策	9名
2018年2月	大阪城	梅林鑑賞	8名
2018年4月	和歌山城	ツツジ鑑賞と和歌山ラーメン	11名
2018年6月	大和郡山城	金魚の町の街並み散策	13名
2018年9月	岸和田城	庄巻のだんじり祭	17名
2018年10月	姫路城	姫路の焼き肉と酒蔵探索	13名
2018年12月	彦根城	近江牛のすき焼き膳	15名
2019年3月	明石城	魚の棚商店街と時の道探索	14名
2019年6月	洲本城	ワインとイタリアンランチ	10名
2019年9月	伊賀上野城	松尾芭蕉と忍者の里	11名
2019年11月	福知山城	御霊神社と和菓子屋さん巡り	13名
2019年12月	大垣城	芭蕉句碑と湧水井戸巡り	13名
2021年12月	丹波篠山城	武家屋敷街とデカンショうどん	11名
2022年12月	岐阜城	濃尾平野の眺望と鮎ラーメン	13名
2023年9月	姫路城	未公開小天守と櫓の特別公開	10名
2023年12月	丸亀城	うちわ作りと骨付き鶏	8名
2024年10月	近江八幡山城	日牟禮八幡宮と八幡堀船巡り	10名



さんさんソング

リーダー：徳重光彦 会員 11名

1月21日 ジャンカラ阪神西宮

参加会員：8名 ゲスト：森さん(着物姿)

新たな気分で新年を迎えられ、今ある健康と幸せに感謝して今年のカラオケソングの始まりとなった。

ゲストの森さんは詩吟の先生でお唄(喉)も振りもさすがでした)



3月21日 ジャンカラ阪神西宮 参加9名

ようやく温かい春を迎えられて、赤ワインで乾杯して大いに盛り上がった。今回から季節をお題に設定して挑戦していただいた。3月は“春”が

テーマで内容は演歌、懐メロ、唱歌あり、皆さんそれぞれ日頃の練習成果を存分に聞かせていただいた。



5月23日 ジャンカラ阪神西宮 参加10名
今回の季節のお題は“初夏”もしくは“雨”に設定。梅雨入り前のまだ涼しい時季ではあったが“雨”をテーマとした演歌が沢山取り上げられた。

また 新しい曲への挑戦も見られ、日頃からの自主トレーニングの成果が遺憾なく発揮されていた。





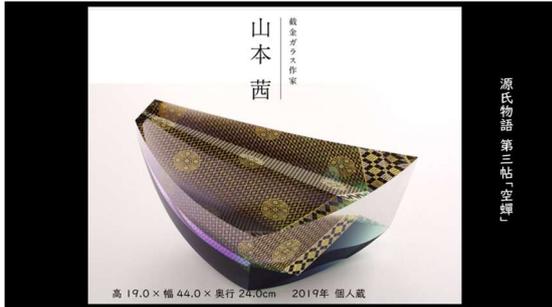
さんさんヒストリア

リーダー：小林猛

会員：42名

12月22日(水) 座学 参加25名

年末最後の座学として、アニメーションによる「源氏物語=Genji Monogatari Movie」と、専門家による「NHKBS 歴史館 源氏物語の誕生の秘密とスキャンダル」の放映で締めくくりました。そして、「源氏物語」をテーマに「截金硝子」という、斬新な方法で截金を表現する 山本茜さんの作品を一部紹介しました。



令和7年1月22日(水) 座学 参加29名

山本茜さんの「截金硝子」の制作映像を交えながら、源氏物語と絡めて、もう少し詳しく紹介しました。そして、【文化庁「伝統工芸超分野交流事業」】超分野対談会 橋本真理さんの司会で、截金ガラス作家・山本茜さん×「源氏物語」研究者・中西智子さんの対談を放映しました。

2月26日(水) 座学 参加26名

3月26日(水) 座学 参加30名

19世紀末から20世紀初頭にかけて、パリ・ウィーン・フィラデルフィアなど欧米の万博ブームに、日本は、幕末から明治にかけて技術の粋を傾け多くの工芸品・絵画を出品しました。

今年は「EXPO25 大阪・関西万博」(4/13~10/13)が開催されます。それに合わせて、奈良国立博物館、京都国立博物館、大阪市立美術館、関西を代表する三大美術館・博物館がそれぞれの地元に因んだ「国宝展」を開催します。今後おそらく、同一地域でこれだけ質量ともに充実した「日本の国宝&重要文化財」が集結することは、絶対にないでしょう。

それに因んで、2月及び3月の座学では、各国宝に出品される文化財の知識を広げるための座学を開催しました。

4月23日(水) 奈良国立博物館

「超国宝 祈りの輝き」 参加19名

この特別展では、奈良の歴史に関わりの深い国宝を中心に、未来の国宝ともいうべき重要作品など、

日本が世界に誇る名品の数々をご紹介し、国宝約110件、重要文化財約20件を含む約140件の仏教・神道美術を展示していました。ほんの一部を紹介します。



百済観音



吉祥天像



如意輪観音

5月7日(水) 大阪市立美術館

「日本 国宝展」前半 参加23名

6月4日(水) 大阪市立美術館

「日本 国宝展」後半 参加20名

本展はおよそ130件もの国宝が一堂に集まり、そのため6期に渡り作品の入れ替えがあります。そこで、ヒストリアでは2回に渡りツアーを実施しました。



生み出された時代を表す鏡でもある美術工芸品、そしてその頂点とも言うべき国宝を通じて日本の美の歴史を辿る、稀有にして贅沢な機会となりました。



洛中洛外図屏風

また、万博の開催が重なるまたとない機会に、初めて大阪で開かれる国宝展であることから、大阪ゆかりの国宝もまとめて紹介されます。すべて最初から国宝だったのではなく、何百年あるいは何千年もの時を越えて奇跡的に今に伝わり、国の至宝となったものばかりです。



孔雀明王図



普賢菩薩騎象像



聖観音菩薩立像



群鶏図



慧可断臂図

5月21日(水) 京都国立博物館
「日本美のるつぼ 展」 参加20名

古くから、日本列島では海を介した往来によって異文化がもたらされ、その出会いのなかでさまざまな美術品が創り出されてきました。その作品のひとつひとつが豊かな交流の果実であり、日本という「るつぼ」のなかで古今東西の多様な文化が溶け合っ、生まれた奇跡です。

本展は、絵画、彫刻、書跡、工芸品など、約200件の文化財を厳選し、日本美術に秘められた異文化交流の軌跡を辿りました。特に、明治の日本が国際社会に乗り出した頃、西洋の美術市場には、江戸時代以前から輸出されていた伊万里焼や輸出漆器に加え、廃刀令や洋装のために無用となった刀装具、印籠、根付、そして浮世絵などがあふれ、日本美術のイメージを作り上げていました。芸術の都パリでは、蒐集家や美術評論家のあいだではジャポニズムと言われる、日本ブームが起き、北斎や哥麿、宗達や光琳(1658~1716)が注目されました。



風神雷神図屏風



神奈川沖浪裏



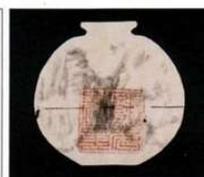
凱風快晴



松本茄子
高6.4cm 底径2.7cm



松本茄子
透過X線写真



「千利休茶入切り型」より
「紹鷗茄子」

松本茄子茶入 (大阪夏の陣で焼失 漆にて修復)



奈良国立博物館(国宝110点)、京都国立博物館(国宝数点)、大阪市立博物館(国宝130点)、三か所で開催された今回の美術展では、日本の国宝及び重要文化財が、質的にも数量的にも圧倒的な作品が展覧され、まさしく空前絶後の催しでした。その催しに、同行の仲間たちと観覧に行き、そしてその作品を語ることができる喜びを味わえました。

また、私たち世代は、2回に渡る関西万国博覧会にも出会うことができ、幸せです。

なお、作品の説明および画像については、さんさん会ホームページに詳しく載っていますので、ぜひご覧ください。



山歩会

リーダー：倉原満治 会員：8名、特別会員7名

第51回 三尾～保津峡

2024年11月29日(金) 晴れ

参加者：会員3名、特別会員2名 計5名

高雄・神護寺では400段の長く急な階段が待っていた、今日一の難所。黄色・真っ赤に色付いた紅葉に目を見張る。今年の紅葉の赤さはいまいちと思っていたのでその艶やかさには驚いた。今日は11kmの高低差がほとんどない道のりだったが、滑りやすい石の上を踏ん張りながら歩いたためか少し疲れが残った。ただ天候にも恵まれ、紅葉と渓谷の流れに癒された一日でした。



第52回 有馬温泉 忘年会

2024年12月13日(金) 晴れ

参加者：会員4名、特別会員1名 計5名

山登りは落葉山のみでしたが、途中は西国33か所石仏ありの久方ぶりの急坂には思わず気後れ、標高533mへの上りは、竹の杖あり大助かりでした。有馬グランドホテル



話にも弾みがつきました。



第53回 六甲・岡本梅林

2025年3月1日(土) 晴れ

参加者：会員6名、特別会員2名 計8名

今年初めての山登りで少し疲れも出て、予定より1時間15分遅れで横池に到着。遅れを取り戻すため七衛兵山はあきらめ、風吹岩を經由して保久良山に下りるコースに変更。35分遅れで保久良山に到着。保久良山登り口で稲垣さん、徳重さん奥様と無事合流し、最終地点の岡本公園に到着。岡本公園は花見客で賑わっており、梅の花は満開を迎えていた。



第54回 北山公園

2025年4月4日(金) 晴れ 参加者：会員5名

夙川沿いの見事な満開の桜を堪能しながら

1.5kmをゆっくりと1時間かけて歩く。北山貯水池でも満開の桜が迎えてくれ、思わず何度もシャッターを切る。夙川に帰り、成城石井でビール・おつまみ購入。川沿いで反省会を兼ねた花見と洒落込んだ。



2025年度は残り7回、6月矢田寺・松尾寺、9月穂高湖・シェール槍、10月荒地山、11月岩湧山、12月有馬温泉、2月中山観音梅林、3月加西アルプスを予定しています。



さんさんキッチン

リーダー：三村邦子 会員数：10名
旬の食材を使い2ヶ月に1回のペースで調理・会話を楽しんでいます。

2025年『新年会』

1月31日(金) 11:00~13:00
女性6名、男性3名 計9名
西宮の木曾路個室で皆さんの健康を祈念して乾杯。ゆったりくつろぎながら、ランチメニューの和食会席に舌つつみを打ちつつ会話を楽しみました。



23回 『肉汁たっぷり ハンバーグ』

5月30日(金) 13:00~17:00
女性6名、男性3名 計9名

ハンバーグはそれぞれの家庭で何度も調理されているため、個々に少し異なった家庭の手順がある。今回はホテルニュー大谷総料理長のレシピで調理を目指したため、手順を全員に徹底させる難さを痛感しながら、いつもより30分遅れて調理完了。それでも肉汁たっぷりハンバーグ・チーズたっぷりのじゃがいもグラタン・甘く濃厚なかぼちゃスープが出来上がり、とても美味しくいただきました。



22回 『巻き寿司と春の一品』

3月28日(金) 13:00-17:00
女性7名、男性3名 計10名

スーパーで簡単に手に入るため意外と巻きなれていない巻き寿司。何とか全員で試行錯誤しながら、沢山の牛肉の巻き寿司・サラダ巻きを巻き終わりました。



さんさんテニス

リーダー 福西 彰 会員：9名
素晴らしいニュースの報告：なんと、新しく庄司さんに来ていただけるようになった。いつの間にかマンネリ感が漂っていた(?)雰囲気も、彼女の加入で、キリッと引き締まった。なぜそうなったのかを少し分析してみると、まず、性格が明るい。コート場に一層笑い声が響くようになった。いままでも羨しかったが、次に、プレーがうまい。油断すると撃ち込まれるので、こちらは緊張の連続を強いられる。そして、持久力もあり、ますます1ゲームをとるのに時間がかかるし、デュースゲームも多くなった。つまり、テニスが楽しくなったのだ。

そして、最大の効果は8人揃うと、必ず一回分休むことができ、連続出場でヘトヘトになることがない。年寄りには大変ありがたい。これからもこのペースで健康で楽しいゲームをやり続けたいものだと思っている。





ムジーク 33

リーダー 兵東 勇 会員：30名

♪第82回：令和6年12月11日 17名
・さんさん会・サニーカフェ合同音楽会 クラシックコンサート ビデオ鑑賞

1曲目はモーツァルト「オーボエ・クラリネット・ホルン・ファゴットと管弦楽の為の協奏交響曲」ソロ4人で贅沢な構成。2曲目はドボルザークの「新世界より」有名な家路のメロディが奏でられました。



当日音楽室に演奏者とリスナーがいっぱいに拡がり、演奏者の息吹を間近に感じ取ることが出来た新鮮な音楽の体験を、今回また体験できました。

・J・シュトラウス オペレッタ「こうもり」カルロス・クライバー指揮の歴史的名盤。あいにく1/3のところまで時間切れとなり次回持越し。
◇忘年会 かごの屋で20名が飲み語り合った。

♪第83回 令和7年1月8日 22名
・J・シュトラウス オペレッタ「こうもり」後編

舞台も衣装も豪華で貴族たちの社交界はこんなものかということがわかり最高。踊るようなクライバーの指揮には彼も役者の一人かとも思える活躍ぶり。ダンスシーンも秀逸で、将棋倒しになる演出にもびっくり。とにかくクライバーは、なじみのバイエルン国立管弦楽団と一緒に、舞台と観客が一つになって楽しんでいる。その姿をみて我々も楽しくなってきた。



・高橋一生が見た法隆寺 in OTOBUTAI 2024

自然のまま、そのなかに音が流れている。それをしっかりと聞いて曲作りに反映するという原さんの姿勢に感動した。小鳥が鳴いたり、飛行機の音がしたり、その中に滝が流れ続ける音を拾う。法隆寺でこそ出来る音の世界があるのだと思わせてくれた貴重な機会であった。

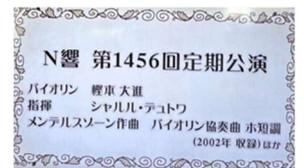


・ギターとマリンバの音楽会

村治佳織と出田りあの共演。トレモロで音を引き延ばす。出田の連れ合いが榎本大進とのこと。びっくりした。



・N響 メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲。榎本大進 22歳の演奏。瑞々しく素晴らしかった。



♪第84回：2月12日 20名
・恒例ウィーンフィルニューイヤーコンサート

今年の指揮者は、なんと7回目出場のイタリア出身リッカルド・ムーティ。恒例で解説は住本会員が担当。林田アナの楽友協会のユニークな運営活動の舞台裏案内、ミヒャエル・ブラデラー（コントラバス奏者）ウィーン・フィルの事務局長が年間の演奏予定を立てること、指揮者やソリストへの出演交渉を団員が運営する。コンサート制作・イベント企画・広報・会計・海外ツアー企画・若者の教育等。アレクサンダー・シュタインベルガー（バイオリン奏者・副楽団長）の寄付活動等、史上初の女性作曲家コンスタンツ・ガイガーの紹介等。ウィーン・フィルにも女性23人の奏者がいること等。面白い話題がたくさんあった。



今年も、「加速度ワルツ」ヨハン・シュトラウス作曲では1882年開業の高級リゾート・ゼンメリンク・ズートバーンホテルが舞台。ここは欧州各地の芸術家が滞在した所。営業を終えた今も往時の栄光が残る。バレエは、男子5人、女子3人で構成、日本人マサユ・キモト氏が出演。また、ポルカ・シュネル「あれか、これか」ヨハン・シュトラウス作曲ではウィーン産業技術博物館1818年開館19世紀末から現代に至るオーストリアの技術発展史が一望できる所。博物館の象徴は蒸気機関車で、ヨハンも鉄道でヨーロッパ中に音楽を届けた。バレエは、男性2人、女性4人のコミカルな蒸気機関車の動く様を振付。

・NHK ニューイヤーオペラコンサート
テーマは「オペラは世界を映す鏡」。絶えない紛争と断絶が進む現代社会に、オペラの物語が問いかけてくるものとは？



日本を代表するオペラ歌手がNHKホールに集結。作品は、「カルメン」、「フィガロの結婚」、「フィデリオ」、「運命の力」、「シモン・ボッカネグラ」、「蝶々夫人」、「アンドレア・シェニエ」ほか。出演は、石橋栄実、大村博美、森麻季、山下牧子、福井敬、黒田博、妻屋秀和ほか。管弦楽・東京フィル、指揮・沼尻竜典、司会・赤木野々花。

♪第85回：3月12日 17名
 ・映画「オーケストラ クラス」 2017年 仏

音楽に触れる機会の少ない子どもたちに無料で楽器を贈呈し、プロの演奏家たちが音楽を教えるフランスの実際の教育プログラムから着想を得た物語で、挫折したバイオリニストと初めて音楽に触れる子どもたちの交流を通して、音楽や人生の喜び、素晴らしさを描いたヒューマンドラマ。この映画にはリアリテ



ィがあった。子供たちの立ち居振る舞い。まさに生の声を聞いているようだ。そして子供たちの親の思いなど、それにシモンの悩みもうまく描かれていた。とにかく、役者がうまい。それで引き込まれてしまうのだ。

・“見える” 第九をベートーベンに届けたい

昨年2月、「ホワイトハンドコーラス NIPPON」がウィーン



の国際会議の場で披露したベートーベンの「第9」コンサートに密着。子どもたちの奮闘を描く。「声と手話で表現」するベートーベンも想像しえなかった新しい音楽は、今世界から注目。

・小澤征爾追悼 クラシック TV

♪第86回：4月9日 13名
 ・地球劇場「さだまさし」

歌もトークもよかった。本音でしゃべっているの聞いていても引き込まれる。さだまさしの歌詞が、それぞれに素晴らしい。山の上の松の木からの視点で詩を書いたという案山子のエピソードや、山口百恵が18歳の歌い始めの時は、歌詞の内容が呑み込めていなかったと言い、21歳のラストコンサートを終えて「やっと、歌詞の意味が理解できました」とさだにメッセージを送る話。楽曲の美しさ、歌唱のすばらしさだけではなく、歌詞をかみしめることで味わいが出る歌手、すごい。



・クラシック TV「バイオリニスト・石田泰尚」
 ・吹奏楽のひびき presents ドリームプラス!

♪第87回 5月14日 19名
 ・映画「パガニーニ 愛と狂気のヴァイオリニスト」

19世紀イタリアの天才バイオリニスト、ニコロ・パガニーニのスクランダルな人生を映画化。欧米を中心に絶大な人気を誇るドイツ人バイオリニスト、デビッド・ギャレットが主人公役でスクリーンデビューを飾り、名器ストラディバリウスで名曲の数々を奏でた。映画の縦線はシャーロットの存在だ。継母で複雑



な家庭だが、彼女の凛とした一貫した態度に感銘を受けた。ドロドロした内容に清涼剤が吹き込まれたように輝いている。彼女は容姿も態度も素晴らしいが、何よりその歌唱力にびっくりした。

・「3曲でクラシックがわかる音楽会:パガニーニ編」
 ・題名のない音楽会「弦を奏でる音楽家たち」

♪第88回 6月11日 18名
 ・傑作オペラ《カルメン》の登場人物・ストーリー・曲をご紹介!

まず、Nakoさんの解説で、あらすじと重要な登場人物や代表的な曲を勉強した。

・1978(昭和53)年12月 ビゼー「カルメン」

カリスマ指揮者カルロス・クライバーの躍動感あふれる指揮姿、そしてクライバーの存在感に劣らぬオーラを放つドン・ホセ役のドミンゴの圧倒的な歌唱。生気に満ちた音楽に熱狂する聴衆の高まり。現在でも色あせることのない名演。



ゼフェレリの過剰とも思える演出に、いつもながら感心させられた。踊りも素晴らしかった、フラメンコ本場の踊りを見せてもらった。そして、酒場の場面での盛り上がりが凄かった。でたらめに人数が多いだけではなかったのだと改めて感心した。

・13歳のバイオリニストが成し遂げた“音楽界最高の荣誉”
 ベルリン・フィル定期演奏会 ソリスト HIMARI の挑戦





さんさん歩

リーダー：奥田兼三・山川三郎・小林章三
会員：18名

第15回「姫路城 西屋敷跡庭園 “好古園”」

令和6年12月2日（月） 参加者 14名
2022年の全国旅行情報誌による絶景ランキング1位に選出された好古園(こうこえん)の紅葉を愛でに行きました。（企画 辻井・山崎）

◆行程： 9:20 JR 芦屋駅集合 10:17 姫路駅着 タクシーに4人ずつ分乗して 好古園へ。まずは「活水軒」にてランチ。

「お屋敷跡 好古園 (こうこえん)」

世界文化遺産国宝 姫路城を借景に、平成4年に開園した池泉回遊式の日本庭園です。昭和60年以來の発掘調査で確認された西御屋敷跡・



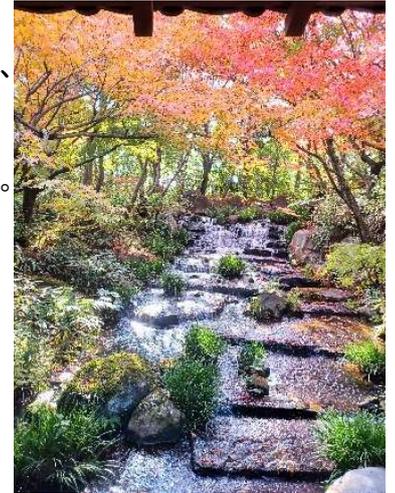
武家屋敷跡・通路跡などの地割りを活かした九つの趣の異なった庭園群で構成され、その面積は約10,000坪(3.5ha)。本多忠政時代元和4年(1618)に造営され、(徳川吉宗時代の)榊原政岑が新吉原から高尾太夫を落籍し、住ませたといわれる西御屋敷跡に造られた「御屋敷の庭」、本格的数寄屋建築の茶室・双樹庵のある「茶の庭」、姫路城の眺めを取り入れた「流れの平庭」・「夏木の庭」・「築山池泉の庭」などの庭園群と、江戸時代をしのばせる築地堀や屋敷門、渡り廊下で結ばれた活水軒(ランチをした部屋)と潮音斎のたたずまいが、特別史跡地にふさわしい歴史的景観を創りだしています。「好古園」の愛称は、江戸時代最後の姫路藩主酒井家によって、この庭園の入り口付近に移設された藩校(文武両道の振興を図った)好古堂に因んでいます(パンフレットより)。江戸時代を偲ばせる築地堀や屋敷門のあるところは「るろうに剣心」の映画が撮影された場所らしく、主人公佐藤健が浮かんできました(個人の感想)。

15種類の竹類のある庭園、もみじやクロマツが映え、亀や鶴をイメージした岩島のある池のある庭、夏木(落葉樹)ばかりを配して、新緑から紅葉まで楽しめるようにした庭が守閣が見えました。



江戸時代に栽培された園芸植物を育成する庭もあり、皆で、庭の樹木や花の名前を言い合いながら、所々にある四阿で休憩し、おしゃべりしな

がら散策していきましました。裏千家第15代家元の設計監修で、京都の数寄屋大工による本格的茶室で抹茶もいただきました。庭園を眺めながら、美味しく値段もリーズナブルな食事ができた活水軒と、入場料310円で10,000坪もある広いお庭の散策に皆大満足。



天気ともみじの見ごろと食事場所と無理ない歩行と最高のセットになるよう下見し、細心の企画をして下さった辻井さんと山崎さんに大感謝。



今まで姫路城の見学は、いった方も多く、広い城内を上がったり下がったり覗いたり見たり聞いたり・・・そして好古園に寄るともう疲れて好古園を楽しめる間がなかった方が多いので、ポイントの好古園散策は、「さんさん歩」らしい企画でよかったですね。



第16回「さかい利晶の杜」

令和7年5月27日(火) 参加者 14名
2015年にオープンした「さかい利晶の杜」は、堺が生んだ茶の湯の大成者「千利休」と、日本近代文学を切り拓いた歌人「与謝野晶子」の生涯や人物像などを通じて、堺の歴史・文化の魅力を発信する文化観光施設です。大いに楽しみました。

(企画 奥田・庄司・k.山川)



行程：JR 芦屋駅9時50分集合。JR 新今宮駅から南海本線に乗換えて堺駅へ。駅から徒歩10分で「さかい利晶の杜」に到着。隣接する「梅の花」で11時30分から昼食。和風の建物にインテリア、和庭園、器を愛で、季節を感じるメニュー「彩ランチ」をゆっくり頂く。



(1) 「さかい利晶の杜」館内の見学

1階2階を13時から各自見学。会館の外側にある千利休屋敷跡も見学可能。

(2) 茶室の見学

千利休作として、唯一現存する茶室、京都府大山崎の「妙喜庵」。その創建当時の姿を堺のここで復元したさかい待庵(たいあん)と、北野大茶湯の利休四畳半茶室を復元した無一庵(むいちあん)と共に見学。二畳敷、四畳半敷の茶室に入り、案内人の説明を聞きながら、床や壁、天井、窓、躡口、茶道口等その空間を体験した。



(3) 千利休茶の湯館の見学

「千利休と堺のまち」「千利休と茶の湯」「千利休とその後」の3コーナーからなるミュージアム

・中近世の堺のまちは、貿易・商業都市として栄えた。

・日明貿易の開始以降、貿易船などが次々来航、南蛮貿易、交易で栄え、財を成した豪商が多数出現。戦国時代において大切な財産を外敵から守るためにまちを取り囲むように、環濠(かんごう)を掘り、自治による環濠(かんごう)都市(とし)として独自に発展を遂げる。

・商家・魚家(ととや)に生まれたとされる千利休。侘茶(わびぢゃ)を大成させ、堺では和菓子文化も花開く。

(4) 与謝野晶子記念館の見学

「みだれ髪」にはじまる多くの詩歌集を出版し、「源氏物語」の現代語訳や社会問題・教育問題にかかわる評論活動も行い、明治大正昭和と激動の時代、常に新しい世界に挑戦し、表現し続けた晶子の姿を紹介する文学館。

・明治時代の堺、羊羹で有名な和菓子商「駿河屋」に生まれた与謝野晶子。生家は2階が西洋づくりで大きな時計のある和洋折衷の建物。再現した展示で晶子の少女時代を紹介している。竹久夢二が描いた晶子のイラストも。

・与謝野鉄幹(寛)と34年間共にし、晶子は12人の子どもの母となる。寛とは、師弟・同志・夫婦であって、互いに終生変わらない愛情と尊敬・信頼の絆で結ばれていた。

(5) 立礼呈茶(りゅうれいていぢゃ)

15時から全員で表千家・裏千家・武者小路千家(この日は裏千家)のお手前により、茶席で使われている道具や床の飾りつけ(床・軸・花入れ)「拝見」、椅子席で抹茶と季節のお菓子を味わい、ホッと一息。



■帰り道、名物芥子餅を求める方、もと来た道で帰宅する方、徒歩3分の阪堺線の宿院駅から天王寺駅まで路面電車に乗って、JRや地下鉄で帰宅するなど、各自のさんさん歩を愉しんだ。



33 アートの会

リーダー 安居院憲彰 会員：31名

🎨 12/4 印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵 鑑賞会 @あべのハルカス美術館 13名

心に残ったのは、ポール・シニャックの《ゴルフ・ジュアン》。黒いマット紙で囲まれており、一目見たとき浮世絵の軸装に思えた。色の具合もまるで錦絵のような平面的な絵で、



とても親近感がわいた。もう一つ、あげるとポール・セザンヌ《「カード遊びをする人々」のための習作》幾つもある習作の一つであるらしいが、上手い。カードの集中している姿がしっかりとえられている。歪んだ果物や、歪んだ建物を描いていたセザンヌもさすが、デッサン力は確かなのであった。習作の方が、何を訴えたかったのかがよく伝わると思う。本物に触れられ、うれしい。

・**昼食はおきまりの BELLINO**
セット料金での飲み物 or デザートの追加は安い。

🎨 令和7年 1/29 田中一村特集 20名 ・奄美への道標（みちしるべ） 画家・田中一村

奄美の自然を描いた独特の作品で人気を博す画家・田中一村。生前は、大きな公募展で落選を繰り返し、無名のまま、69年の生涯を閉じた。奄美の傑作は、どのようにして生まれたのか。



・近代日本画と田中一村～奄美で極めた魂の絵画～
自然を主題とする、澄んだ光にあふれた一村の絵画は、情熱の結晶で、静かで落ち着いた雰囲気の中に消えることのない魂の輝きを宿す。

・美と風土 黒潮の画譜 ～異端の画家 田中一村～
幼くして非凡な才能をみせた田中一村は、後年色鮮やかな色彩に魅せられて奄美大島に移り住み、それまで誰も描けなかった亜熱帯の自然を生命感あふれる絵に凝縮した。



中央画壇を離れ自ら信ずる絵の世界に生きた一村の作品とその人となりを迎える。1984/2/放送。

・砂の一粒一粒を描いた奇跡の画『アダンの海辺』
奄美にわたって生活に追われながら12年目にやっと絹地に岩絵の具で描かれた日本画『アダンの海辺』が誕生。



・奄美の森に抱かれて～日本画家 田中一村～
一村の絵は、木の葉越しに風景が描かれる。これは心の底からの思いで森の中に入り込んだ一村だからこそその目線だ。奄美では木々や生き物すべてに神が宿るといふ信仰があり、彼の画風は森に抱かれるような心象風景にまで昇華した。

🎨 2/19 アラカルト 18名

・蛇にまつわる話 西洋絵画に見るヘビ
キリスト教における蛇の扱われ方を紐解き、悪役のように思えて賢いものの代表にされたり様ではない。

まず、蛇はイブに対して「賢くなる」としか言っていない。唆しただけ。

次には、蛇は「原罪」を象徴する。これは「無原罪のお宿り」という絵画にマリア様が蛇を踏んでいる図がある。マリア様は原罪を免れている。また、蛇は賢い・神聖視・キリストの代わりの存在として描かれたり、使われたりしている。

・【絵で見るギリシャ神話と蛇】蛇退治神話が世界中に多い。蛇は医学や商業の象徴にもなる。

・100歳現役！藤城清治の影絵×八木亜希子
三日月の夜、森の中で繰り広げられるメルヘンの世界その描写の緻密さ。筆で描くのではなく、全て紙を切って描かれた影絵である事に驚く。しかしよく見ると森は燃えている。「再生の炎」に託した意味とは？



・天気予報の目線でゴッホを見るとどうなる！

ゴッホについて「星月夜」をお天気解説。ミストラルの吹く時に描かれたものだ。冬の寒い時に南仏特有の北西の風が吹く。これは乾いた風でとっても寒い。雲がグルグルしているのはその乾きと寒さを表したのではないかとの解説。



🎨 3/19 モネ&フレンズ・アライブ 16名
・プロジェクションマッピング

太鼓橋での記念撮影。わざわざ準備してくれている。池の水の反映も再現され感動した。



大型画面に取り囲まれた空間で絨毯の上に座って鑑賞する。

いつもの展示会と違って足は疲れないので、我々には大層有難い企画である。



じっとしていれば、いろんな絵が表示される。

光、色、音、香りの中で、クロード・モネ、カミーユ・ピサロ、ピエール＝オーギュスト・ルノワール、ポール・セザンヌ、エドガー・ドガらの大胆な筆遣いを巨大なスクリーンに映し出し、次々に流れるサウンドに身を委ねることで、印象派の世界の激しさと美しさに心を奪われる体験を楽しむことができた。

・昼食会 東遊園地内の「ヴィラ・ブランシェ」



🎨 4/16 アラカルト 20名

・映画「メットガラ」～ドレスをまとった美術館～

凄いドキュメンタリー番組だった。辣腕の編集長アナ・ウィンターの活躍ぶりや決断の速さにびっくり。



これ見よがしな、金持ちの遊びを垣間見たという感じで、日本人から言わせれば、上品ではない催しだ。話題性のみで彩られたお祭りなのであろう。宣伝効果を狙ったものだ。

・モネ展 事前学習

解説！特別展「モネ—睡蓮のとき」
今回のモネ展の見所について五郎さんが語る

・ノートルダム大聖堂の復活

昨年12月に公開を再開した。汚れを落とし、修復もして白くきれいになったとのこと。



🎨 5/21 モネ睡蓮のとき 鑑賞会 13名

ばらのアーチの小道から見た家の連作もあった。そこではばらの赤色が中心になっているのだろうが、水面の連作とは違う色遣いに感心する。何が描きたかったのか、ほとんど抽象のような世界である。でも、絵具の塗り方に変化もあり、厚塗りであるでゴッホのような筆遣いもあった。モネには抽象画ではなく、目に見えたままを描いたのだと思う。私にはこう見えたのだという表明だ。花の美しさ、自然の素晴らしさを現したのだ。



・昼食 旬菜食健 ひな野 (創作料理)のランチ

🎨 6/18 仏人画家と日本の彫刻家 18名

・名画が語る“地球の力”～仏・大地誕生の謎～

絵画の現場を訪ねそこに働く圧倒的な大地の力を体感できた。絶景誕生に秘められた5億年に及ぶ地球の歴史が明らかになった。



印象派の画家たちは、重い画材をもって現場まで通ったのだということがよく分かった。



また、歴史画や宗教画が主流の時代に、自然のすばらしさを描いてみようとしたパイオニア精神を刺激したものが、この“大地の不思議”であったのだ。

- ・モネの庭体験報告 アトリ工展示室と睡蓮の池
- ・見過ごさないで！須田悦弘・超絶技巧の「雑草彫刻」
- ・「石川雲蝶の天井彫刻」

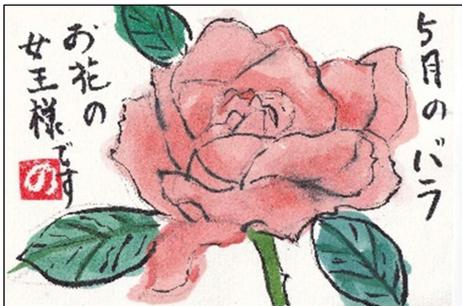




絵手紙さんさん

代表：前田 穰 会員数：5名
 活動：毎月第2木曜日 9:20~12:00
 会場：リードあしや
 メンバー：稲垣恵子・久我三和子・下中智子・
 堀京子・前田穰

一時（2025.1~3）永井律子さんがメンバーに加わりましたが、都合が悪くなり退会されて、また5名のメンバーになりました。これからも少人数ですが、頑張っ楽しんで続けて行きます。



編集後記

新年会つい最近の出来事のように思いますが、もう半年もたちました。光陰矢の如し。新しい企画として、会員インタビューを始めました。知りたいことがたくさんあります。会員の“気になる情報”を共有したいので、面白い話を聞きだしてみようと思います。「旅を刻む」は珍しい英国のクリスマスマーケットの報告とオランダ・ベルギーです。同好会の報告もそれぞれ楽しい話題で満載。城巡りは遂に行き尽し、新規模様替えとか。会員の皆様の活躍が、目に見えるようです。

興味津々の話題がてんこ盛りになりました。ゆっくりとお楽しみください。



右のQRコードにて、「さんさん会」のホームページをご覧ください

